

2027年5月期 第1四半期決算説明資料
(2026年6月1日～2026年8月31日)

小津産業株式会社

証券コード7487

2026年10月8日

当決算におけるポイント	3
1. 2027年5月期 第一四半期決算概要	4
2. 2027年5月期 業績予想	9
3. 事業分野別 主要動向と取組み施策	11
4. 参考資料	23

当決算におけるポイント



27/5 1Q 業績

	実績	前年同期比
売上高	2,964百万円	+294百万円 +11.0%
営業利益	333百万円	+183百万円 +121.6%
営業利益率	11.3%	+5.6pts
親会社株主に帰属する 四半期純利益	303百万円	+139百万円 +85.0%

27/5 通期業績予想

	実績	前年同期比
売上高	10,800百万円	+61百万円 +0.6%
営業利益	550百万円	△37百万円 △6.4%
営業利益率	5.1%	△0.4pts
親会社株主に帰属する 当期純利益	440百万円	△170百万円 △27.9%

ポイント

27/5 1Q 業績

- ・クリーン分野において、国内外のAI/データセンター関連需要の取込みが奏功
- ・ウェルネスケア分野において、ウェット製品の安定した需要を背景に
主要顧客への販売が好調に推移
- ・原燃料や物流コストの高騰に対し、主力製品の販売価格の適正化推進
- ・中東情勢の影響は軽微

27/5 通期業績予想

- ・通期業績予想は2026年7月10日発表時から変更なし
⇒経費発生時期の後ずれ要因もあり変更なし
- ・中東情勢による業績への影響は折りこまず

1. 2027年5月期 第一四半期決算概要
2. 2027年5月期 業績予想
3. 事業分野別 主要動向と取組み施策
4. 参考資料

業績のポイント

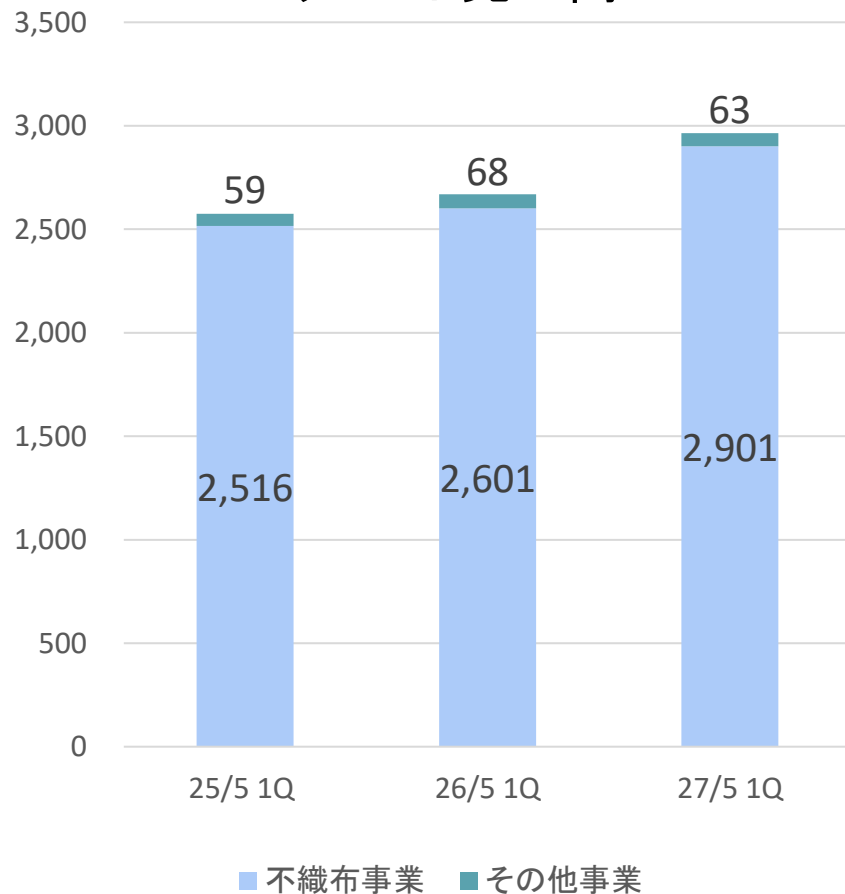
- 前期比 増収増益
- クリーン分野において、国内外のAI/データセンター関連需要の取込みが奏功
海外光学関連も引き続き好調に推移
主要製品の販売価格適正化を推進
中東情勢の影響は軽微
- ウェルネスケア分野において、主要取引先向けのウェット製品販売が好調
安定需要を背景に主要ウェット製品の出荷が拡大

(百万円)	26/5 1Q		27/5 1Q		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	増減額
売上高	2,669	100.0%	2,964	100.0%	294
売上総利益	861	32.2%	1,032	34.8%	170
販売費及び一般管理費	710	27.6%	698	23.6%	△12
営業利益	150	5.6%	333	11.3%	183
経常利益	238	8.9%	419	14.2%	181
親会社株主に帰属する 四半期純利益	164	6.1%	303	10.2%	139

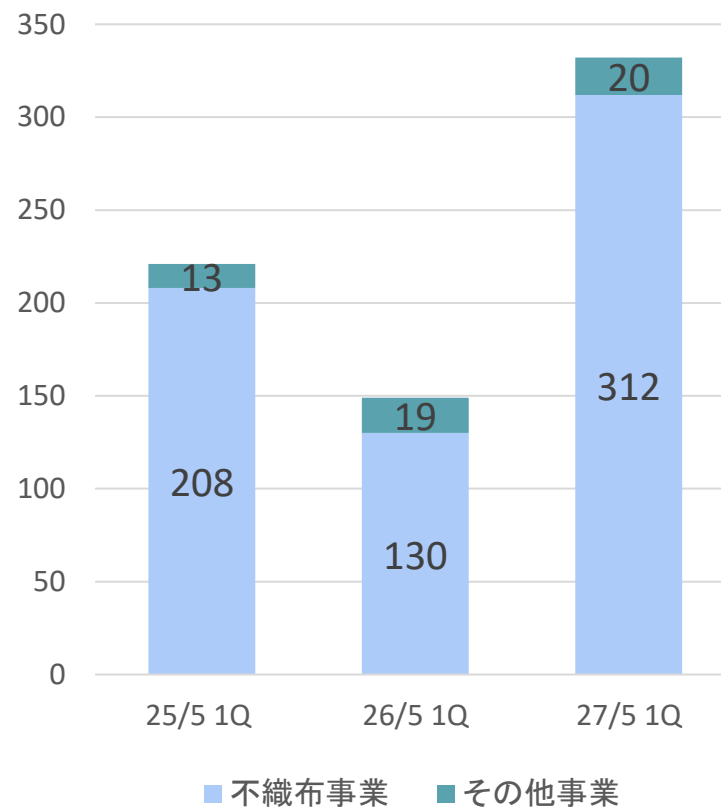
過年度比較 I (セグメント別業績推移)



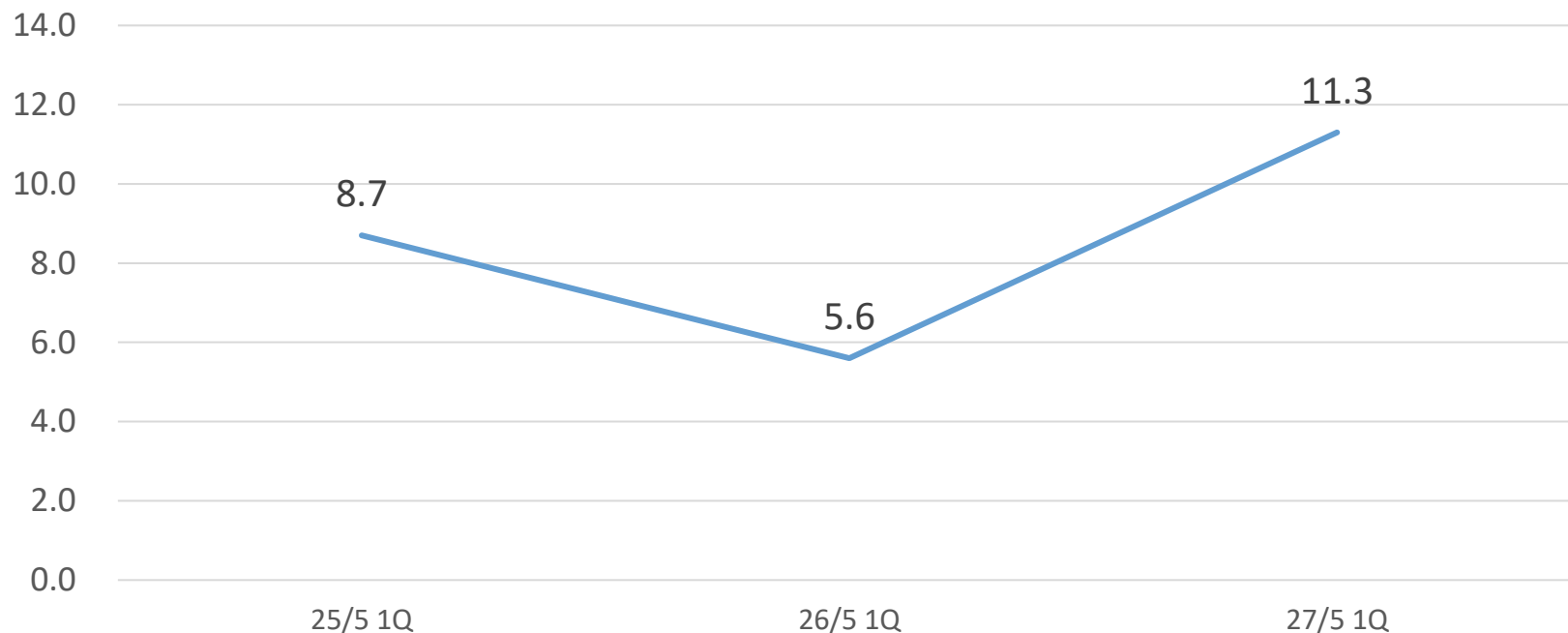
セグメント売上高



セグメント利益



ROS(売上高営業利益率)



- 前期比 増収増益
- クリーン分野やウェルネスケア分野など主要分野の需要拡大により増収
- 原価低減、販売価格の適正化により利益率も向上
- 長期ビジョン「OZU Innovation2034」の実現の土台づくりとして、人材確保、市場調査・研究開発費等へ戦略的に経費を充当

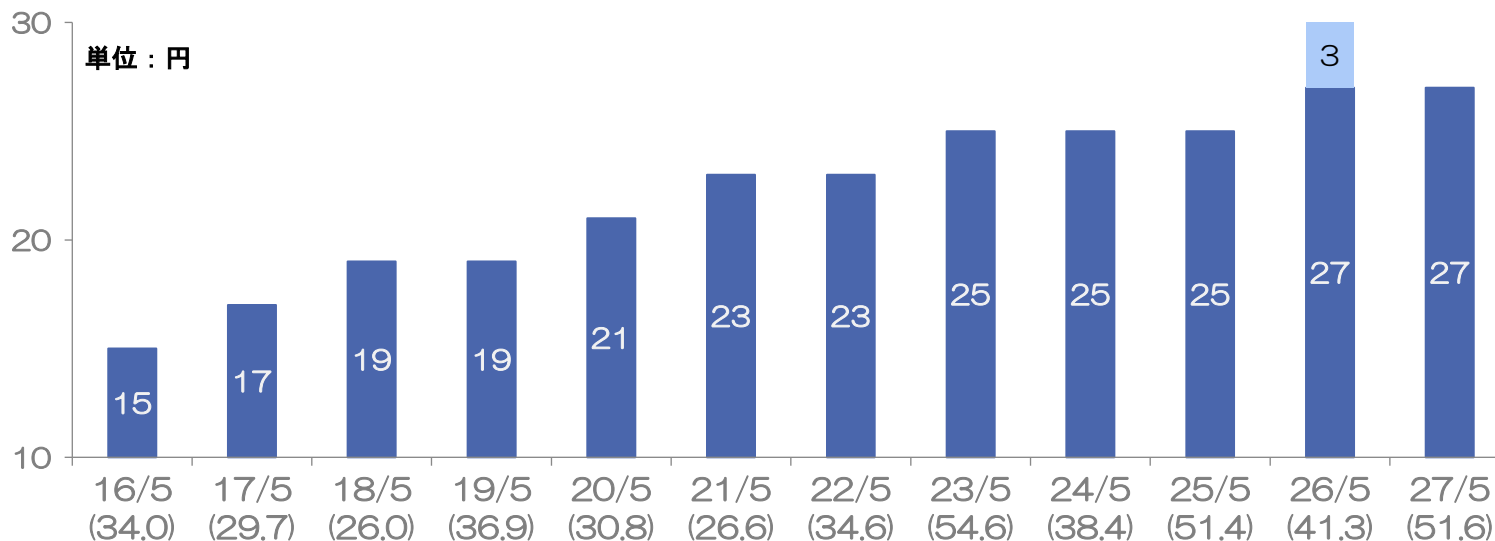
株主還元方針

株主さまに対して、長期的に安定した利益還元を行うことを基本方針としつつ、合わせて当社グループの企業体質の強化と将来の事業展開に備えた内部留保の確保を総合的に勘案し、株主還元を行います。

加えて、株主さまへの利益還元を充実するため、業績に多大な影響を与える事象の発生がないかぎり減配はせず、記念配当を除く累進配当を目指して業績向上に努めます。

2027年5月期は、一株あたり27円の配当(配当性向51.6%)を予定しております。

配当金推移



※()内は配当性向

※水色は記念配当

1. 2027年5月期 第一四半期決算概要
2. 2027年5月期 業績予想
3. 事業分野別 主要動向と取組み施策
4. 参考資料

2027年5月期 連結業績予想



業績予想概略

中東情勢の影響:

状況は日々変化しており、年度を通じて合理的な影響を織り込むことは困難
状況変化に適時・適切に対応、コスト上昇分は販売価格の適正化を進め利益を確保

売上高:10,800百万円 前期比 61百万円

- 国内コスメティック製品の販売減少が見込まれるものの、AI/データセンター関連需要は引き続き好調が予想され、積極的な取込みに注力し、売上高は横ばいを見込む

営業利益:550百万円 前期比 △37百万円

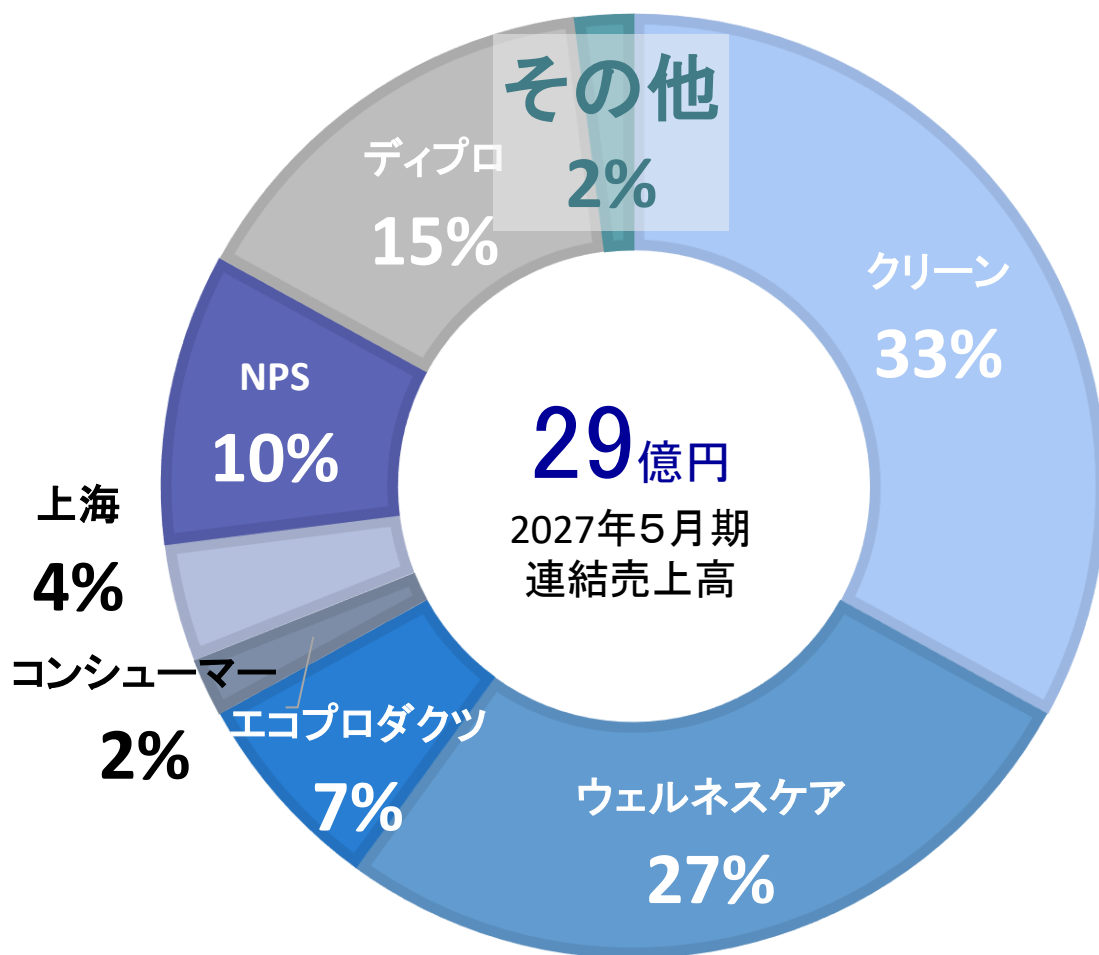
- 長期ビジョン『Ozu Innovation2034』で掲げる目標達成に向け、人材確保、市場調査・研究開発費等に戦略的に予算を充当
- 販売価格の適正化を進め利益を確保

(百万円)	26/5 実績	27/5 中計当初目標	27/5 通期業績予想	前期比	目標比
売上高	10,739	10,500	10,800	61	300
営業利益	587	300	550	△37	250
経常利益	808	-	660	△148	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	610	-	440	△170	-

1. 2027年5月期 第一四半期決算概要
2. 2027年5月期 業績予想
- 3. 事業分野別 主要動向と取組み施策**
4. 参考資料

不織布事業(分野)	事業の概要
クリーン分野 (電子・食品・製薬等)	半導体、自動車、製薬、食品工場等の製造現場で使用される不織布製品の企画・販売 日本を始め、アジアを中心に先端技術産業を側面からサポート
ウェルネスケア分野 (医療・介護・コスメティック等)	病院・介護施設向け感染対策製品や防災製品および国内外の化粧品メーカーの お客様ブランドの商品を企画・製造販売
エコプロダクツ分野 (鉄鋼・電力・建設等)	インフラを支える製造環境の改善製品を販売 「エコ」をキーワードに幅広い環境対応製品の企画・販売を推進
コンシューマー分野 (一般消費者向け)	マスク・ウェット製品等の一般消費者向け製品の企画・販売 インスタグラムなどのSNSを活用し、商品のPRや認知度アップに努める
小津(上海)貿易有限公司	中国における販売・購買の拠点 中国でのクリーン分野製品の販売や原材料購買を推進
日本プラントシーダー(株)	農業の生産性を高める「シーダー農法」製品を展開 省力化、生産性向上の手助けとなる製品を開発・展開
(株)ディプロ	小津グループの生産拠点 化粧品や医薬部外品等の高付加価値ウェット製品を生産
その他事業	事業の概要
除菌関連事業 (エンビロテックジャパン(株))	食品添加物として過酢酸製剤を販売(米国FDA認証、2016年厚労省認可) フードロス削減に繋がる過酢酸製剤の販売を推進
不動産賃貸業	不動産賃貸事業を営む

連結売上高 構成比



不織布事業 98%

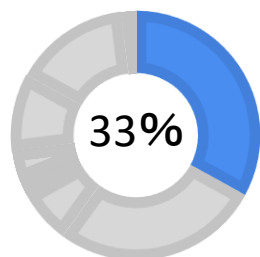
※クリーン、ウェルネス、エコプロダクツ、
コンシューマー、上海、NPS、ディプロ

その他の事業 2%

※その他(除菌関連事業、不動産賃貸事業)

※連結調整前の分野別売上高での比較

売上構成比率



事業の概要

半導体・自動車・食品・航空・製薬等、製造現場のワイパーなどの不織布製品を展開
様々な製造現場に「より清潔・より快適」を提供

【取扱製品例】

「ワイパー(ベンコット®)」



「航空用ワイパー」



「厚手紙ワイパー」



「熱中対策 汗拭きシート」



※「ベンコット®」は旭化成の登録商標です。

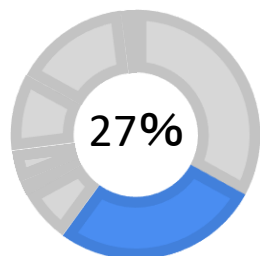
2027年5月期 1Q実績

- ・国内外でAI/データセンター関連需要を取込み、好調維持
 - ・主要製品の販売価格適正化を推進
 - ・中東情勢の影響は軽微
- ⇒売上高、利益面ともに前期比増加

今後の取組み

- ・AI/データセンター関連分野および半導体関連企業向けに提案強化と更なる拡販
- ・販売価格改定の確実な浸透と収益性向
- ・食品工場向けに過酢酸製剤および消耗品の拡販体制の構築

売上構成比率



事業の概要

不織布と加工の技術をより発展させ、生き活きとした日常生活に貢献
高品質な医療・介護製品、スキンケア商材を開発し、
「より清潔・より快適」を提供

【取扱製品例】

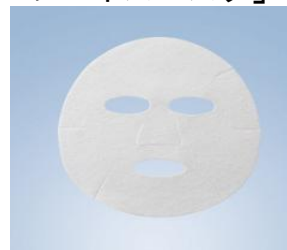
「医療機器清拭用ワイパー」



「流せるおしりふき」



「フェイスマスク」



「ウェットシート」



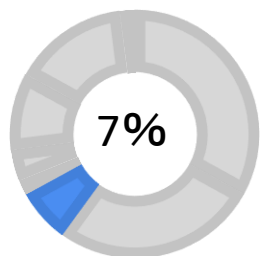
2027年5月期 1Q実績

- ・ ウェット製品の安定した需要を背景に販売好調を維持
 - ・ コスメ製品の販売は苦戦
- ⇒売上高、利益面ともに前期比増加

今後の取組み

- ・ (株)ディプロを活用した在宅介護製品、防災備蓄製品の開発・拡販
- ・ コスト最適化提案
- ・ フェイスマスク充填機の稼働率向上と受注拡大

売上構成比率



事業の概要

インフラを支える製造環境の改善に貢献
生活基盤を支える領域に、機能性を持つ製品を展開し、
「より清潔・より快適」を提供

【取扱製品例】

「油吸着材(オイルテイクー)」



「熱中対策 汗拭きシート」



2027年5月期 1Q実績

- ・ 環境対応製品の拡販を推進
 - ・ 除染布（五大力）の販売
- ⇒売上高、利益面ともに前期比増加

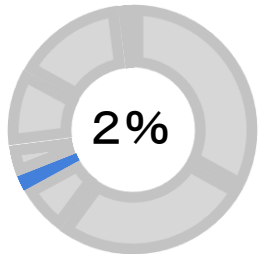
今後の取組み

- ・ 環境対策品オイルテイクーおよび周辺製品の提案強化と販売拡大
- ・ 「エコ」をキーワードとした新製品開発
- ・ 不採算、低成長分野の刷新による体質改善

コンシューマー分野(一般消費者向け)



売上構成比率



事業の概要

新しい機能を開発・強化、人に優しい製品で生活に貢献
機能性を持たせた不織布製品を通じて、
日常生活に「より清潔・より快適」を提供

【取扱製品例】

「マスク (DewAir®)」



「除菌ウェットシート (ケアウィル®)」



「メガネクリーナー (DewAir®)」



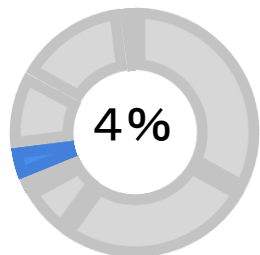
2027年5月期 1Q実績

- ・ マスク需要が落ち着く中、自社ブランドマスクが好調に推移
 - ・ ドラッグストア等向け除菌ウェット製品やメイク落としが堅調に推移
- ⇒売上高、利益面ともに前期比増加

今後の取組み

- ・ 市場ニーズを素早く捉え、商品化までの開発スピードを向上
- ・ 販売チャネルの拡大とともに、販促施策や営業活動を強化
- ・ SNSなどを活用した情報発信を強化し、商品の認知度の向上

売上構成比率



事業の概要

中国における販売・生産・購買の拠点
中国でのクリーン分野製品の販売や原材料購買を通じ、
「より清潔・より快適」を提供

【取扱製品例】

「ワイパー(ベンコット®)」



「原材料・製品具材調達（イメージ画像）」



※「ベンコット®」は旭化成の登録商標です。

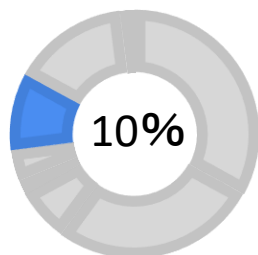
2027年5月期 1Q実績

- ・ 光学関連向けの販売が好調に推移
 - ・ 主要取引先向け出荷が堅調推移
- ⇒売上高、利益面ともに前期比増加

今後の取組み

- ・ 光学分野の更なる深耕と代理店との連携強化による新規ユーザー開拓
- ・ 中国からベトナム等の東南アジアへ進出・移転する中華系企業への提案強化
- ・ グループ会社（小津産業、ディプロ）向けの製品購入窓口機能の強化

売上構成比率



事業の概要

農業の生産性を高める「シーダー農法」製品を展開
省力化、生産性向上の手助けとなる製品を開発・展開し
「より清潔・より快適」を提供

<http://www.plantseeder.co.jp/>

【取扱製品例】

「シーダーマシン(あけマルくん®)」 「シーダーテープ」



「シーダーテープ製造機」



2027年5月期 1Q実績

- ・ 海外向け資材販売が低調なるも、国内における農業用資材および機材の販売が堅調に推移
- ・ 販売価格の適正化を推進

⇒売上高は前期比減少、利益面は増加

今後の取組み

- ・ 主力である播種機販売や高品質テープ資材の提案強化と新規取引先獲得の推進
- ・ 海外主要取引先における販売回復に向けた取組みの加速
- ・ 生産効率化およびコスト抑制を継続

STSR共創プロジェクト始動（2026年10月6日発表）

当社グループの日本プラントシーダーをはじめ、旭化成など5社が連携した持続可能な地域農業モデルの構築に向け、本共創プロジェクトを始動いたしました。（2026年10月6日発表）

当社は、プロジェクト全体の企画・推進、企業間・地域間の連携促進、事業モデルの構築を行い、日本プラントシーダーはシーダーテープおよび播種技術の提供、農業現場への導入提案・普及促進を担います。

本共創プロジェクトは参画5社がそれぞれの強みを持ちより、次世代につながる持続可能な農業モデルの構築を目指し、農業現場の課題解決に取り組みます。

詳細につきましては、当社ホームページに掲載の『シーダーテープを用いた持続可能な地域農業の実現に着手』をご参照ください。
https://www.ozu.co.jp/news/2026/10/20261006_PR_STSR.pdf

プロジェクト概略

・5社連携による次世代農業モデルの構築

旭化成、BST、NORINA、日本プラントシーダー、小津産業の5社で始動（2026年10月6日発表）

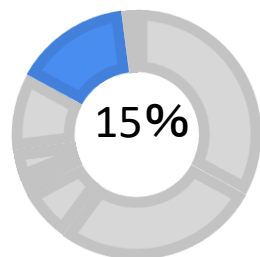
・ターゲット領域と普及可能性

国内水稻作付面積約142.5万haのうち、適性の高い中山間地域（約50万ha）等を中心に導入・普及検証を実施

・生産から流通・販売までの仕組みづくり

農作業の省力化と生産者の収益確保（「どう作るか」から「どう売るか」まで）をトータルでサポート

売上構成比率



事業の概要

小津グループの製造拠点
化粧品や医薬部外品等の高付加価値ウェット製品を生産し、
「より清潔・より快適」を提供

<http://kk-dipro.co.jp/>

【取扱製品例】

「高濃度アルコール除菌シート」



「本社工場外観および機械設備」



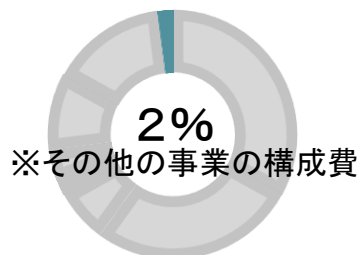
2027年5月期 1Q実績

- ・ OEM品の販売が順調に推移
 - ・ 生産効率化およびコスト抑制への取り組みが奏功
- ⇒売上高は横ばい、利益面は前期比増加

今後の取組み

- ・ ウェット製品のコスト対策の推進と採算性向上
- ・ 小津産業との提案活動等のグループシナジーの創出とOEM受注拡大
- ・ 企画・開発力の強化、製造機能の活用・拡充による高性能製品開発

売上構成比率



事業の概要

食品添加物の過酢酸製剤を販売
(米国FDA認証、2016年厚労省認可)
フードロス削減に繋がる過酢酸製剤の拡販で
「より清潔・より快適」を提供

<http://envirotechjp.com/>

【取扱製品例】

「過酢酸製剤 (パーサン®)」



「使用事例」



2027年5月期 1Q実績

- ・ 代理店ルートを通じた食品加工工場への新規採用・導入が順調に伸長
- ⇒売上高、利益面ともに前期比増加

今後の取組み

- ・ 代理店ルートを活用した食品・飲料工場への積極的な横展開と新規獲得の推進
- ・ 小津産業との同行営業など、グループシナジー効果の強化

1. 2027年5月期 第一四半期決算概要
2. 2027年5月期 業績予想
3. 事業分野別 主要動向と取組み施策
4. 参考資料

2027年5月期 第1四半期連結貸借対照表



(百万円)	26/5 4Q	27/5 1Q	増減額
流動資産	14,568	14,875	307
固定資産	11,024	11,781	756
総資産	25,593	26,657	1,064
流動負債	4,564	4,709	144
固定負債	1,842	2,138	296
負債合計	6,407	6,847	440
純資産	19,185	19,809	623
自己資本 比率	74.5%	73.9%	△0.6%

主な増減要因

■ 資産	
投資有価証券	824
受取手形及び売掛金	238
■ 負債	
繰延税金負債	824
支払手形及び買掛金	163
■ 純資産	
その他有価証券評価差額金	564

- 1653年(承応2年)創業の和紙問屋を起源とする「紙と不織布」の製造商社
- 現在では、クリーン分野、ウェルネスケア分野、エコプロダクツ分野、コンシューマー分野などを展開
- 機能性不織布製品の企画開発から製造・販売までをメインとした幅広いサービスを提供



当社の概要



会社名

小津産業株式会社

本社所在地

東京都中央区日本橋本町3-6-2

創業

1653年(承応2年)

設立

1939年(昭和14年)12月6日

資本金

13億2,221万円

証券コード

東証スタンダード 市場 7487

事業内容

不織布・紙製品等の販売・加工・ウェット製品製造、
輸出入および過酢酸製剤販売

従業員数

連結:245名 単体:86名(2026年5月31日現在)

役員等

代表取締役 社長執行役員	柴崎 治
取締役 常務執行役員	村尾 茂
取締役 常務執行役員	三崎 剛志
取締役 上席執行役員	立野 智之
社外取締役	山下 俊史
社外取締役	阿部 光伸
社外取締役	青木 常子
常勤監査役	近藤 聡
社外監査役	深山 徹
社外監査役	齋藤 友孝
上席執行役員	山田 拓
執行役員	中野 伸昭

関係会社

連結子会社	オヅテクノ(株)
	日本プラントシーダー(株)
	(株)ディプロ
	小津(上海)貿易有限公司
	エンビロテックジャパン(株)
	(株)旭小津



本資料に関するお問い合わせ

小津産業株式会社 経営企画室

Email : soumu@ozu.co.jp

<https://www.ozu.co.jp/>

本資料の取り扱いについて

- ・本書には、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ・別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ・当社グループは、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ・当社グループ以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。